

とても大事な蹄の手入れ



スザッチ

飼育員 日誌

長野・須坂市動物園

ポニー

ポニーは奇蹄目ウマ科の仲間。奇蹄目は、1本や3本のように奇数の爪を持つのが特徴です。馬の足先にある「蹄^{ひづめ}」は、私たちでいうところの「つま先」。大きな体を支える大切な部分で、健康な生活に欠かせない部分です。

でも、蹄は歩いたり走ったりするうちに、

すり減ったり汚れたりします。そのままにしておくと、割れたり、バランスが悪くなったりして、足を痛めてしまうこともあります。

そのため当園では、蹄の裏（地面に着く部分）の手入れを定期的に行っています。1日1、2回、蹄の地面につく部分の掃除「裏掘り」を行い、糞^{ふん}や石などが挟まっていないか、傷がないかを確認し、最後に消毒をします。

また、3カ月に1度、伸びた蹄を削る「削蹄^{さくてい}」を馬の専門の「装蹄師^{そうていし}」さんにしてもらいます。実は、馬の足元は第2の心臓とも呼ばれるくらい重要な部分なのです。

ぜひ、ポニーたちの「足元」にも注目してみてください。

（ポニー担当 原田絵梨）



ポニーの足の「裏掘り」を行う
飼育員（須坂市動物園提供）